

---

『物流 Weekly』連載原稿

『日本ロジファクトリーの物流ケース・スタディー』

“社長！それは違います！” 第53回

---

<タイトル>

「向上心とメモは比例する！？」

<本文>

私は仕事柄、多くの社会人の前で講演や研修、指導などを行う。

今日の受講生や聞き手は真剣であるか・そうでないか、やる気があるのか・ないのか、理解しているのか・できていないのかなどを常に意識して、アンテナを張っている。このようなことを繰り返していると、ある一つの現象に気が付く。

それはメモである。真剣にまじめに聞いている人、やる気がある、理解しようとしている人は、必ずメモを取っている。

中には例外的な人物もいるかもしれないが、多くの向上心のある人は、メモを取るということを共通動作にしている。

社内スタッフでも同じだ。「早く仕事を覚えよう」「正確な仕事をしよう」「喜んでもらえる仕事をしよう」と心がけているスタッフは必ずメモを取る。一方、物流の現場ではメモを取るという習慣がないし、そういう環境がない。

しかし、このような環境をつくって、報告、連絡、相談の徹底体制や業務ミスを削減している会社もある。

この会社は、あまりにも多い連絡ミスや人的ミスを改善するため、現場スタッフとパート、アルバイト全員にミニ手帳と二色ボールペンを配布し、必ず人との話し合いや指示を受ける場合には、ユニフォームのポケットとペンさしからミニ手帳と二色ボールペンを手にすることを義務づけた。

それまで月に約十件以上発生していた連絡ミスや指示ミスが、いまでは一 二件にまで激減した。

実は、このような「メモを取る」という行為は、義務教育の中で教えられているのであるが、躰（しつけ）にまで至っていない。会社の現場でも改めて、メモの重要性を伝える必要がある。

そのメモを取る継続性と徹底性は、あくまでも本人の向上心と比例することになるが  
…。